

2026年6月12日

生命保険募集人の呼称公募 結果発表

生命保険協会（会長：高田幸徳 住友生命保険社長、以下「当会」）は「生命保険募集人」を総称する呼称として「生保ナビゲーター“ソナエルジュ”」を大賞作品に決定しました。



「生保ナビゲーター“ソナエルジュ”」は、2025年9月19日から11月11日の期間にて実施した一般公募にて、応募総数9,191作品の中から選定されました。選考にあたり、決定した呼称が世の中で広く使われることを見据え、生命保険募集人の役割や働き方を表現した呼称を検討してきました。

昨年12月、外部の有識者からなる最終審査委員会では、呼称に求められる要件として、「生命保険」の提供という役割の“明確性”および生命保険募集人の役割や印象を造語で表現する“独創性”をいずれも実現する必要があるという結論に至りました。その結果、「明確性」を高い完成度で表現した「生保ナビゲーター」と、「独創性」と親しみやすさを備えた「ソナエルジュ」という2つの作品を大賞作品として決定しました。

当会では、「生保ナビゲーター“ソナエルジュ”」という呼称を通じて、生命保険募集人が果たす役割や社会的意義への理解が一層深まることを期待するとともに、今後も信頼される生命保険業界の発展に向けた取り組みを進めていきます。

※結果については、大賞作品お知らせページ (<https://koubo.jp/lp/kosho-boshu-result>)にて確認することができます。

1. 大賞作品について

作品	コンセプト
生保ナビゲーター	<ul style="list-style-type: none"> ・「ナビゲーター」は、進むべき道を示す案内人を意味し、生命保険を指す「生保」と組み合わせ、人生の不安やリスクに対して、保険という手段を通じて安心への道筋を示す役割を担うプロフェッショナルを象徴。 ・お客さま一人ひとりの将来に寄り添いながら、保険商品の複雑な選択肢や選び方、アフターフォローなど、わかりやすく導く存在として、社会の安心を支える使命感と信頼性を込めた名称。 <p>(70歳代、男性、フリーランス・自営業)</p>

<選考の視点・評価>

「生保」という表現から生命保険商品を取り扱う専門家であること、「ナビゲーター」という表現からお客さまを「導く」存在であることが想起され、生命保険募集人の社会的役割や魅力が、コンセプトとともに明確に表現されているものと考えられます。

※本作品について複数の応募がありましたが、コンセプトを含め選定しています。

作品	コンセプト
ソナエルジュ	<ul style="list-style-type: none"> ・「備え」という機能的な価値と、「コンシェルジュ」というサービス価値（きめ細かさ・専門性）の両方を表現。 ・「募集人」のような販売活動を連想させる語ではなく、お客さまに寄り添いサポートする、プロフェッショナルな相談役というポジティブなイメージで考案。 <p>(40歳代、男性、会社員)</p>

<選考の視点・評価>

「備える」+「コンシェルジュ」という造語のユニークさを有しているとともに、生命保険本来の機能である万が一の場合への備えを提供する役割や、生命保険商品提案時のコンサルティングや契約締結後のアフターサービス等を通じてお客さま満足度を高める役割が親しみやすく表現されているものと考えられます。

2. 最終審査委員会を終えて（最終審査委員からのコメント）

おおむら ゆきこ

■大村 由紀子（三浦法律事務所 弁護士）

- ・候補作品はいずれも甲乙つけがたく、また、最終的にどのような形で絞り込んでいくのかを具体的にイメージしきれていなかったため、会場に来るまでは「果たして大賞を選定できるのだろうか」と不安に思い、緊張していました。
- ・しかし、実際に最終審査委員会が始まると、様々な切り口で活発な意見が交わされ、私自身も楽しく、また深く考えながら議論に参加させていただくことができました。最終的には、非常に納得感のある作品が大賞に選ばれたと感じています。
- ・この大賞作品が、生命保険募集人の新たな呼称として広く定着していくよう、微力ながら協力できればと考えています。

こむら みづき

■古村 聖（関西学院大学 経済学部准教授）

- ・候補作品はどれも素晴らしく、この中からどのように決めるのか不安に感じていましたが、皆さまのご意見を反映・集約していく過程で、大変納得感のある大賞作品になったと感じています。
- ・新たな呼称を決めるプロセスに関わらせていただいたので、この大賞作品が浸透していくことを祈りつつ、自分自身も協力できることを探していきたいと思います。

たかやま かずみ

■高山 一実（乃木坂46合同会社 タレント・作家）

- ・他の委員の視点が自分にはない視点で、大変勉強になりました。このような機会をいただけてすごく嬉しい気持ちです。
- ・今回の選考過程において、たくさん悩みながら大賞作品を決定したので、ネーミングを検討する際は、今回と同様、たくさん悩まれて検討されていることを身に染みて感じました。
- ・今回の経験を、今後の活動にも活かしていければと思っています。

ふじた あきお

■藤田 章夫（週刊ダイヤモンド 副編集長）

- ・候補作品のリストを最初に見たときからとても悩みました。（最終審査当日まで）毎日作品リストを見て過ごしていると、見るたびに考えが変わるほど、良い作品が多いと思いました。
- ・最終審査委員会での議論を通じ、各委員それぞれたくさん悩まれたということを強く感じました。最終的に、委員全員が納得できる形で大賞作品が決まったことが嬉しく、記事で、書ける・使えるような呼称が選ばれて良かったと感じています。
- ・今回選ばれた大賞作品が世の中へ浸透するためにも、マスコミである自分は、委員の中で一番協力できる立場にあると思っていますので、毎年のダイヤモンドの特集号などの機会を通じて発信していきます。

■ ^{たかだ}高田 ^{ゆきのり}幸徳 (生命保険協会会長(住友生命保険相互会社 取締役 代表執行役社長))

- ・ 9000作品を超える応募があり、多くの方に生命保険業界に興味を持っていただいていることを嬉しく思います。
- ・ 呼称を決めるというのは本当に難しく、生命保険募集人は、多様な役割を期待されている職種なのだと改めて実感しました。
- ・ 今回決まった大賞作品は、継続的に使用していくことで愛情がまた増していくと思いますので、マスコミなども通じて広めていきたいと考えています。
- ・ 当会として、「生保ナビゲーター”ソナエルジュ“」に命を吹き込んでいけるよう、生命保険業界を支えていきたいと思っています。

以 上

<参考>応募状況

○応募作品数：9,191作品

○応募者数：4,215名 ※一人あたり最大5作品応募可能

○男女比

	人数	占率
男性	2,284名	54.2%
女性	1,798名	42.7%
回答なし	133名	3.2%

○職業

	人数	占率
会社員	2,240名	53.1%
無職	387名	9.1%
フリーランス・自営業	377名	8.9%
アルバイト・パート	358名	8.4%
主婦・主夫	268名	6.3%
公務員	158名	3.7%
学生（大学／大学院／専門学校）	148名	3.5%
教職員	72名	1.7%
学生（小中高）	63名	1.4%
その他	144名	3.4%

○生命保険業界

	人数	占率
業界内	966名	22.9%
それ以外	3,219名	76.4%
回答なし	30名	0.7%

以上